

“自分”を生きる

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。

見よ、それは極めて良かった。

—創世記1章31節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2008年8月29日
第114号

『みんなニコニコがいい』

戸塚ルーテル教会附属幼稚園

園長 清水 臣



聖句

『だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。』

ローマの信徒への手紙

15章19節

今年の五月、ミャンマーでは強力なサイクロンによる被害が、そして中国では大地震による被害が、それぞれ続くように起きました。六月には日本でも、岩手や宮城で大きな地震が発生し、今も大勢の人々が、不自由な生活を強いられております。

ミャンマー、中国での大災害が報じられた直後、教会で、支援のための献金活動を始めた時でした。園児礼拝で、ミャンマーや中国の大勢のお友だちが災害で苦しんでいるお話や、お父さんやお母さんが亡くなって、大勢のお友だちが悲しんでいるお話をしました。そ

して、献金箱を見せながら、支援活動のお話もしました。翌日の朝、登園してきた年長組の一人の女の子が、「園長先生、献金持って来た。」と言って来てくれました。「ああ、昨日の話をすっかり聞いてくれたんだ」と嬉しくなりました。「ちよっと待っていて。今、園庭に献金箱を持ってくるから、自分で入れて。」と、彼女に直接献金してもらいました。その時、彼女がこんなことも言ってくれました。「園長先生、今度私たちが困っていたら、ミャンマーや中国の人たちも献金してくれるんだよね。」私は、自分自身が地震の被害を受けて困る、などという事は、思ってもいなかった事ですし、何か「ハッ」とさせられた言葉でした。「ミャンマーや中国の人たちは、きっと嬉しいだろうなあ。だから今度は喜んで、私たちのためにも献金してくれるんだろうなあ」そんな彼女の思いが伝わって来たのです。そして、「自分は、そんなふうに、相手の思いを量って献金してないなあ。ただ機械的にしていただけだなあ」そんなふうにも、考えさせられたわけです。

それからしばらくして、献金箱の中身を点検していましたら、子どもたちがよく使う、メモ用紙大のお手紙が入っていました。名前も書いてあって、年中組の女の子

でした。こんなことが書いてありました。「イエスさま、みんなニコニコがいいです。」献金と一緒にこのお手紙を入れたのか、それともお手紙だけだったのか、それは定かではありません。でも園長から献金箱のお話を聞いて、この年中組の女の子は、少なくともイエス様と献金箱がつながっていると思っただのことも知れません。そんなふうにまた想像させられますと、子ども達の凄さに畏れつつ、愛おしさが沸々と湧いて来たのです。

八月は特に平和を覚える月でもあります。それぞれの幼稚園、保育園でも、特別な行事や活動を用意しておられるところもあるかと思えます。私たちの幼稚園でも、平和にちなんだ絵本や紙芝居に、毎年子どもたちと共に親しむよう努めております。何よりも、平和の塊のような子どもたちと過ごす毎日、私にとっては、まさに平和であると同時に、平和を教えられる時でもあるのです。



新任の先生からのメッセージ

保育者になった理由

高座みどり幼稚園 二見 真以

私が保育者になろうと考え始めたのは高校生のころでした。初めは子どもが好きだという理由からです。私には妹が一人いますが、その妹とは六歳年齢が離れています。また、従兄弟たちとは妹以上に年齢が離れているため、幼い子どもたちと遊ぶ機会がとても多くありました。このような環境も子どもが好きな理由に影響しているのだと思います。

今思うと、高校生のころは全く知識もなく、保育者になりたいと漠然と考えていたように感じます。大学に入り、子どもについて学び始めると、教科書で学ぶことも大切ですが、直接子どもたちに関わってこそ理解できることがあることがわかりました。そして、子どもたちともっと関わり、成長を見守っていきたいと思うようになりました。本格的に就職を決める時に、「これから一生涯かけて自分がやりたいことは何なのか」と、もう一度考えると、自然と「保育者」が見えてきたように感じます。

今年保育者になり、まだまだ至らないことの多い私ですが、毎日子どもの傍で成長を見守り、子どもと一緒に日々保育者として成長していきたいと思います。



保育者になった今、思うこと

野毛山幼稚園 駒場 愛

私が幼稚園の先生になりたいと思ったのは、もちろん子どもが好きで、一緒に笑ったり発見したり驚いたり、いろいろな経験をしながら日々、過ごしていきたいと思っただけである。しかしそれ以上に、私が幼稚園の時にお世話になった先生の事が好きで、そんな先生になりたいと思ったのが最初のきっかけである。

しかし、いざ憧れの『先生』の仕事を始めると、一日一日があつと言う間に過ぎていて、子どもたち一人ひとりとの関わりがもたてていかなかったり、私ばかり先を急いで、すぐに手助けをしてしまいがちで、子ども自身の行動を待たない、子ども自身のことばかりである。また沢山の子どもを観るのは大変なことだが、その中で一人ずつの関係を密に、丁寧に行っていくことで信頼

関係を築くことができ、集団の保育もスムーズに行えるのではないかと思う。しかし、大変なことばかりではなく、嬉しいことも沢山ある。その中の一つに、子どもたちの成長がある。友だちにおもちゃを貸してあげられなかった子が、友だちと仲良く遊んでいる様子を見たり、挨拶が出来なかった子が大きな声で言えるようになったり、日々成長している姿が私たち保育者の喜びとなるのである。

教保育の場で子どもたちと共に育ち合いたいという思いを持ち、保育者となりました。しかしこれは、自らの思いでのみ実現したのではなく、神様のご計画とお導きによるものだと思います。四月より、幼稚園の現場で保育者としての生活を始め、現在二〇人の五歳児の子どもたちと、毎日過ごしています。クラスでよく話している「今は何をするとときかな？考えてごらん」といった、私の言葉を用いて友だちに話しかける子どもの姿も見られます。子どもたちの言葉により、保育者が環境であり、私の持つ個性が生活に反映されていることを、子どもとの関わりから改めて気付かされています。



保育者となり感じること

本牧めぐみ幼稚園 杉村 朋恵

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」（マルコによる福音書十二章三〇、三一節）これは、私が保育者として歩み始めた今、大切にしたい御言葉です。

私は、キリスト教主義学校で学び育ちました。そして、キリスト

「幼稚園に来るのが楽しみ」という子どもたちの期待や、挑戦する姿に一人ひとりの変化と喜びを感じます。一方、活動の進め方のリズムや内容において、タイミングを掴む難しさを感じ、試行錯誤の毎日です。

保育の場では、知識はもちろん臨機応変に行動する力や、自らを高めていくために挑戦することが大切だと実感しています。

私は今、子どもと共に生活することの興味深さを日々の保育の中で感じています。

二〇〇八年度 第一回講演会報告

講演会担当 大漣 知子

六月十一日（水）、野毛山幼稚園（野毛山キリストの教会）にて、東海大学付属本多記念幼稚園園長の高橋功先生による講演『フィンランドの幼児教育に学ぶ』が行われました。一五四名の参加でした。

先生はまず、子どもの心と言葉の発達について様々な文献からお伝えくださいました。途中、織り込んでくださった絵本の読み聞かせや素話には楽しさを覚えると共に、発見がありました。

私は、先生のフィンランドと日本の教育を比較してのお話の中、自分たちの保育について、また価値観について問うていました。例えば、「フィンランドでは、学ぶ側の学びたいという意欲が尊重されている。日本は、教える側の学ばせたいという思いが先行している。」ということばを受け、「私たちの保育現場ではどうであるう？」と考えさせられていました。また、「フィンランドでは、三歳から六歳の幼児七人に対して保育者一人が配置されているが、日本は一人の保育者が最大幼児三五人を受け持つことのあり得る体制であ

る」という現状については、子どもにとつても保育者にとつても厳しい現実であるが、その中で子どもへの幸せのために何ができるかを考えたいと思いました。

先生は、「フィンランドの教育で大切にされているものは、①問題解決力 ②コミュニケーション力です」ということを繰り返し語られました。続いて、フィンランドの教育の根本理念を『起業家精神教育』と表されていました。この言葉自体、私にとつては新鮮でした。それを支える要素である◎自己効力感（自己肯定感とも呼べるでしょう）・◎社会性・◎創造性は私たちが子どもたちに育んでほしいものとも重なるものです。

私たちは、この日、高橋先生のご同僚であられる石橋宏之先生のフィンランド訪問報告も、大変興味深くお聞きしました。石橋先生が報告の中で話された「フィンランドの子どもたちは、学校を自分のための学校と思っている。自分が学ぶために学校に来ているのだから、他人と比べない」との言葉が耳に残りました。



新任研修会報告

捜真幼稚園 寺田 千栄

五月十四日、六月二五日横浜英和幼稚園にて、新任教師研修会が行われました。講師は昨年引き続き、後藤當子先生にお願いしました。昨年は、子どもの姿の捉え方や心の動きについて伺いました。今年も、子どもの心を支える保育者ということ、お話を伺っています。

一回目は子どもと保育者の位置について教えられました。保育者と子どもはどちらが先ということではなく、横の線で過ごすものである。指導案を計画し、先に立つて引張っていくのではなく、目の前にいる子どもたちをよく観察して、子どもを主体にしていくことが大切である。私たちは子どもや保護者から先生と呼ばれ、それに慣れていつも自分が先に行かなければと思うてしまう。神様の前にどちらが先ということではなく、子どもの横にいる存在でいたいと思いました。また具体的に子どもの生活を見てみると、集中できている時と、集中できていない時があるが、後でよく振り返ってみると保育者が無駄な言葉を言っていたり、無駄な時間を過ごさせていた

りすることが多い。自分の保育を見直し、声のかけ方、プログラムのすすめ方等ちよつとしたことから改善していく姿勢が必要である。自分の保育を振り返り、ハツとするような気付きも与えられました。二回目は、六月になって、保育者にも余裕が出て、子どもたちの個性の差がはっきりと見えてくる頃であることもあって、集団から一対一の関わりをすることが、子どもが育つ大事な土壌になることを示されました。一人ひとりの子どもが、その生活の中で、内的喜び、充実感があると、精神的に安定して保育者との関わりの中で自分を出していくことが出来る。そのような活動を見守り、子どもの表現を根気良く受け止め、関わっていくことで、二、三学期のクラス運営が変わってくる。クラスの中で不安定な子がいた時、いろいろなサインを送ってこちらに助けを求めているので、そのような子をすぐに皆の所に引き上げるのではなく、まず保育者がおりていって絆を作ることである。というお話でした。

講演後は六、七人のグループになつて、懇談の時を持ちました。同じ悩みを共有し、先生のお話から自分の保育を振り返る良い時を与えられています。

《役員会報告》 書記 鈴木裕美

いよいよ夏休みも終わります。元気な子どもたちが園へと集ってくることでしよう。夏期講習会でいただいた恵みを携えて、子どもたちと共に生活していきたいと思えます。

◆総会報告

四月十五日（火）、平塚教会にて二〇〇八年度総会が開催され、議案はすべて承認されました。また監事役員坪内克浩先生の辞任に伴い、清水臣先生の就任が承認されました。

◆第一回講習会

六月十一日（水）野毛山キリストの教会礼拝堂にて、高橋功先生に「フィンランドの幼児教育に学ぶ」と題して講演をしていただきました。

◆主任研修会

七月四日（金）平塚教会ホールにおいて、「ちよつと気になる子どもの保育」と題して、林美先生にお話ししていただきました。

◆夏期講習会

八月二十九日（金）に関東学院大学で行います。主題講演は「今を生きる」講師は深井智朗先生（滝野川教会主任牧師・聖学院大学総合研究所教授）です。午後は七つの分科会に分かれて学びます。

片瀬のぞみ幼稚園より



『雨の季節のボード』一年少
あじさい色の紙をハサミで切り、あじさい色の絵の具を塗った紙皿にのりで貼りました。（片瀬）



『父の日に描いた絵』一年長
父の日を前に、『皆のお父さん、どんな顔？』
お父さんの顔をよく見て来て描きました。（片瀬）

関東野庭幼稚園より

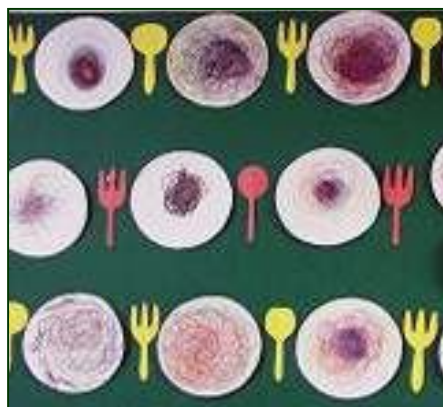
『地域との交流、慰問の際にお渡しするカード』



開園以来お付き合いしているF特別養護老人ホームがあります。年長児が折り紙で作った作品を保護者のボランティアサークルの方々がカードに仕上げ下さり、毎月40分の道のりを歩いてお届けしています。季節感のある作品で大変喜ばれています。

他園の保育をちょっと覗いてみましょう。きっと参考になりますよ。今回は子どもたちのいつも楽しんでいる製作のアイデアを3園から寄せていただきました。

関東六浦幼稚園より 『年中組の楽しい製作』



「クレヨンで遊ぼう」で描いたスパゲッティです。自分の食べたものを描きました。（六浦）



色画用紙とセロハンで作ったサングラス、素敵でしょう！（六浦）

編集後記

お忙しい中、部会だよりに原稿を寄せて下さった先生方に感謝申し上げます。内容の濃い、皆様の保育に役立つ部会だよりをお届け出来るようにと考えております。お気づきのこと等がありましたら広報担当までお知らせ下さい。

まもなく新学期、私たち一人ひとりが子どもたちと過ごさせて下さる神様の恵みに感謝しつつ、毎日の保育に励んでまいります。

発行日

二〇〇八年八月二十九日

発行所

平塚市見附町六一十八

平塚二葉幼稚園 内

キリスト教保育連盟 神奈川部会

編集者

神奈川部会 広報担当